

日亜商事設立記念レセプション（於:アルゼンチン大使公邸）

勝田 富雄

去る10月16日アルゼンチン大使公邸に於いてテンポーネ大使主催の日亜商事株式会社設立の記念レセプションを開催いただきました。

日亜商事はアルゼンチン牛肉の輸入販売などを手掛ける会社として、本年3月10日に設立され、9月より日本国内への販売を開始いたしました。

冒頭、テンポーネ大使よりアルゼンチン牛肉の安全性、ポテンシャルの高さ、及び、日亜商事設立に伴う、日亜交流発展の拡大とアルゼンチン牛肉の日本市場への普及を期待する旨のご挨拶をいただきました。

日亜商事はアルゼンチンに関係が深く、アルゼンチンに愛着を持つ、私を含む3人（末尾プロフィール参照）が発起人となり設立いたしました。

私は17年間アルゼンチンに在住し、17年間食べてきたアルゼンチン牛肉の味を忘れることができず、日本の多くの皆様にも味わっていただきたいと常日頃、願っている一人でもあります。

従いまして、日亜商事は単なるアルゼンチン牛肉の輸入販売のみならず、日亜交流の発展、アルゼンチン牛肉の日本市場への普及、そしてお客様第一を念頭に置いて、お客様の目線で見た商品の提供を会社方針に掲げて事業展開を進める事業体として設立しました。



テンポーネ大使挨拶



日亜商事(株) 勝田代表取締役 挨拶



試食いただいたアサード

現在はコロラド川（一部バランカス川）より南のパタゴニア地域の牛肉のみの輸入が可能です。この地域の牛肉は成長ホルモン剤・抗生剤は使用せず、ヨーロッパ向け輸出プログラムに則ったアニマルウェルフェア認証を取得しています。

日亜商事はこの地域で日本への輸出実績のある牛肉処理加工会社、FRIDEVI社からの輸入を開始いたしました。

輸入部位はヒレ、リブローズ、サーロインなどの高級部位とTボーンなどの骨付き部位、そしてタンなども揃えております。

会場ではヒレ、リブローズのアサードを試食いただきましたが好評で、日本市場で受け入れられることを確信いたしました。

FRIDEVI社が日本に供給する牛肉は、アンガスやヘレフォードの肉用種に限定され、ホルモン剤不使用です。加えて、日本人の味覚にあうように、出荷前60日間穀物飼料を与えていることから、赤身に仄かなサシ（筋間脂肪）が入るように仕上げられています。そのため、肉用種ならではのしっかりとした味わいのある赤身肉に、脂の甘みが程よく感じられ、とても食べやすい牛肉になっています。

テンポーネ大使の挨拶では北部地域牛肉の日本輸出への交渉も進んでおり、近い将来アルゼンチン全域からの輸出が可能になる見込みである旨、説明がありました。

当面は年間販売目標を120～300トンとして事業展開を図り、アルゼンチン全域からの輸入解禁に備えた体制の構築を進めていく計画です。

一方で米豪からの輸入牛肉との関税差、物流コスト、アルゼンチン牛肉の知名度不足など課題もたくさんあり、事業運営は厳しいものと覚悟しております。

この課題の克服と会社方針を達成し事業として成功する為、トヨタ自動車での経験を活かして牧場からお客さままでを直接つなぐ物流体制を構築し、ジャストインタイムの考えを取り入れて、在庫の無駄、物流の無駄を少なくして、価格と量の安定、そして品質の安定を図りタイムリーな供給とコスト低減を目指します。既に2社の牧場主の協力を確認しており、11月到着の牛肉は、このうちの1社の牧場から納入された牛の肉が

90%を占めていると報告を受けております。

安定的な供給量を確保する手段として、預託生産(*)による畜産業への参入を企画しており、既にアルゼンチンに有限会社日亜畜産を設立し、100頭の牛でのトライ準備を進めております。

預託生産する牧場は私自身が現地確認し確定しております。

以上に述べました日亜商事設立の目的、会社方針はレセプションに出席いただいた当協会の永井理事長や農水省輸出・国際局の杉中淳局長をはじめ、食品産業新聞社、食肉通信社等多数の食肉業界の方々にご理解いただいたと思っております。

皆様のご支援、ご協力を宜しくお願いいたします。



永井理事長 他約50名の招待者

発起人プロフィール

勝田富雄：代表取締役

- ・アルゼンチンに17年間在住、トヨタアルゼンチン/部品メーカーの経営に携わりアルゼンチン自動車産業や日亜交流の発展に貢献
- ・在亜日本商工会議所会頭、専務理事などを歴任

原リカルド：国際貿易担当

- ・ブエノスアイレス生まれのアルゼンチン日系2世、日亜文化交流やアルゼンチン企業幹部の日本研修及びアルゼンチン製品の輸入などの事業に従事し日亜交流に貢献

松井一敬：セールスマネージャー

- ・アルゼンチン人の母を持つ東京生まれ、アルゼンチン牛肉に精通し、アルゼンチン牛肉のネット販売の元祖とも言えるドンロッシを立ち上げ、アルゼンチン牛肉の日本国内への普及に力を注いでいる



テンポーネ大使と発起人3名

* 預託生産：【例】生後8カ月（体重180～200kg）の子牛を購入し、既存の牧場に預託して育成。

牧場に10カ月放牧した後➡60日間穀物飼料を与えて出荷(体重400～450kg)

かつた とみお（当協会常務理事）